

1. 授業の基本情報

対象授業の「教材の開発と実践(歴史)」は、科目区分「専門教育科目(発展科目)」に相当する科目である。本授業は、学習指導要領や教科書に明記されている内容や歴史学の研究成果を踏まえて、教育内容を設定した上で、授業実践をできる力を育成することを目的とする。この目的を果たすために、授業では社会科授業に関する理論とそれに基づく実践について考察を行ったうえで、地域連携実習で行った授業開発・実践の報告を行い、授業改善のための視点や方法について議論を行った。本授業の登録学生数は5名で、教育学研究科教育高度化専攻社会コース1回生だった。

2. 授業評価・授業研究の内容

授業評価を行うために①【知識・理解】、②【技能】、③【思考・判断・表現】、④【興味・関心・意欲】に関するアンケート調査を行った。なお、各質問に対して、「1とても思う・2ある程度思う・3あまりそう思わない・4授業の目標・内容がこのDPとは無関係である」という四つの選択肢を設定し、2021年2月に調査を実施した。アンケート調査結果(回答数5)は次の通りである。

(1) 知識・理解について

【質問内容】歴史の授業開発のための教材研究に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得することができた。

- 1 とても思う 3名
- 2 ある程度思う 2名
- 3 あまりそう思わない 0名
- 4 授業の目標・内容がこのDPとは無関係である 0名

(2) 技能について

【質問内容】教材研究に取り組むための十分な技能を身に付けることができた。

- 1 とても思う 3名
- 2 ある程度思う 2名
- 3 あまりそう思わない 0名
- 4 授業の目標・内容がこのDPとは無関係である 0名

(3) 思考・判断・表現について

【質問内容】歴史の授業開発のための教材研究をすすめるうえで生じる課題について、専門的な知見をもとに対応策を考え、その過程

や結果を適切に表現することができるようになった。

- 1 とても思う 3名
- 2 ある程度思う 2名
- 3 あまりそう思わない 0名
- 4 授業の目標・内容がこのDPとは無関係である 0名

(4) 興味・関心・意欲について

社会科教師としての使命感や責任感を持ち、歴史の授業開発に関する課題を明確にして理論と実践とを結び付けた主体的な学習ができるようになった。

- 1 とても思う 3名
- 2 ある程度思う 2名
- 3 あまりそう思わない 0名
- 4 授業の目標・内容がこのDPとは無関係である 0名

(5) 本授業の振り返り(自由記述)

本授業について、歴史授業の「理論と実践の往還」という視点から振り返り、あなたの考えを記入してください。

【主な意見】

○自身が行った実践を受講生と先生方に揉まれることで新しい視点や反省点が生まれた。とくに、社会科という科目の裏には、その科目に携わる学問の関わりが大きい。歴史学、史料読解といった具合だ。その学問の専門性なしに社会科の授業は行えない。常に専門家の方と語り合う必要性を感じるとともに、それを教育現場における実践に落とし込む必要がある。

○自らが行った授業や他の院生が行った授業について考えることで、歴史授業で何をすべきか自分の研究に落とし込み考えることが出来た。理論を学び新たな授業を考える際の手がかりにすることが出来たと感じている。一方で、講義で発表した授業に関しては、学校現場の都合で実践を行うことが難しく、改善案を作るにとどまった。その点をどのようにしていくかが課題になる。

3. 「アンケート結果」に基づく授業改善について

本授業では、主に歴史教育に関する「理論と実践の往還」を体現するための授業力の基礎の育成を目指していた。アンケート結果に

基づく授業改善の方法としては、各授業後に授業内で行った議論の成果をふまえ、授業改善プランを開発し実践に基づく検証を行うというサイクルの構築が有効であると考えられる。